「マーケットの浅読み・深読み」
発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫
▼▲▼
◇◆◇　No.0769　◇◆◇　　23/12/20

【　干支や過去の経験則参考、来年の相場などを考える　】

今週の当レターでは、先週と異なる視点から来年の為替金融市場、ならびに社会や経済情勢を考えて見たい。具体的には干支や過去の経験則など、やや「緩め」の視点から俯瞰すると、来年は必ずしも「悪い」ことばかりではない気がするのだが果たして。もちろん、個人的には日本経済などが好転されれば非常に嬉しいと思っている。

＜＜　干支は「甲辰」、あまりネガティブなイメージなし　＞＞
まず、来年の干支はというと、十干が「甲（きのえ）」で十二支は「辰（たつ）」。つまり、「甲辰」になる。

陰陽五行説によると、「甲」は十干の 1 番目にあたり、「生命や物事の始まりや成長を表す」という。これ自体はポジティブな見解になるが、逆にネガティブな見方を指摘すると「物事に対して耐え忍ぶ状態を表す」とされている。
いま現在の日本を見ると、どちらかというと後者。政治情勢はボロボロだし、経済も回復基調にあるものの、それが巡航軌道に乗るものか一過性で終わるのか、甚だ疑問も残る状況だ。しかし来年は、ほぼ確実に日本の総選挙も実施されることで、岸田首相の交代などが実現すれば、次に向けた「成長」が期待できるということなのかもしれない。

一方、十二支である「辰」は始まりから 5 番目にあたり、唯一架空の生き物になる。そして、一般的にも水や海の神様として祀られてきたことは有名だが、そこから転じて「自然万物が振動し、草木が成長して活力が旺盛になる」ことを表すそうだ。

なお、「辰」はその姿から、「天空へ駆け上がる」――などといった具合に、証券業界を中心として金融市場関係者のあいだでは「強気の象徴」として考える向きも多い。確かに、過去に遡って調べてみると「辰」年の株式パフォーマンスはかなり良いとされており、相場格言として「辰巳天井」という言葉を聞いたことがある方もいるだろう。来年の株価を今年以上に期待する市場参加者が多いことも頷けるところだ。
いずれにしても、前述したような「甲」と「辰」の組み合わせからすると、決して日本経済などは悪くなく、むしろ明るさを感じるイメージなのだが果てして如何に⁉

＜＜　過去の「辰年」経験則では、日本だけでなく世界的な政治情勢注意　＞＞
調べて見ると、12 年に一度の「辰年」は、何故か日本を中心に各国でなかなか大きな政治の転換点になることが多く興味深い。

紙幅の関係もあるため、日本における比較的喫緊の事例だけにとどめるが、36 年前の 1988 年にはいま現在自民党を大きく揺るがす「裏金疑惑」。「令和リクルート事件」とも揶揄されるものの元祖、本物の「リクルート事件」がまず発生している。
また、24 年前の 2000 年は「病魔によって小渕首相が倒れ、『森内閣』が急遽発足」。その森内閣で挑んだ衆院選で自民は惨敗となった。一方で民主党が改選前の 95 議席から 127 議席と大幅増を記録している。対して、前回に当たる 2012 年はそれと逆の結果に。野田首相のもと総選挙に臨んだ民主党が今度は大惨敗を喫する。自民党はなんと 294 議席の圧勝で政権を奪還。そして、歴代最長となる第 2 次安倍政権が誕生していた。

日本だけで話を終えるつもりだったが、せっかくなので海外も簡単に振り返っておくと、前々回の 2000 年、ロシアのエリツィン大統領が任期満了前の辞任を発表。首相を務めていたプーチン氏が、そのあとを継ぎ大統領へ。そして現在に至る。
また前回 2012 年はというと、中国において胡錦濤国家主席から最高指導者を引き継ぐ格好で習近平国家副主席を総書記に選出。さらに、北朝鮮の金正恩氏が党最高ポストの第 1 書記に就任、前年 12 月に死去した父、金正日総書記からの権力継承手続きを終えていた。いま現在、世界を賑わす権威主義国家 3 つすべてが、それぞれ「辰年」に権力の継承が行われていたことは偶然にしても非常面白い一致と言えよう。

そうした状況を踏まえたうえで再考すると、先週レポートしたように、ロシアは来年大統領選を控えているうえ、中国も国内経済情勢を考えると習主席の地位も盤石とは言いにくい。ヒョッとしたら、来年も権威主義国家で大きな「権力移行」といった動きがあるかも知れないという気がしている。対して、かくゆう日本も人のことは言えないが、前述したような「辰年」の政変に呑み込まれる可能性あり。世界的な政治情勢が年間を通して大荒れの状況となるリスクを孕んでいることは頭に入れておいて損がなさそうだ。
一方、それとは別に、日銀は速水総裁のもと 2000 年 8 月に「セロ金利解除」に踏み切っているのだが、同じ辰年の来年も政策金利の変更を見込む向きが多いのは単なる偶然なのだろうか。（了）

▼▲

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter